

S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満

第1回	
事前学習	異文化理解、多文化共生とはどのようなことか考えておく。インターネットなどで関連する情報、すなわち、日本における文化の多様性にまつわる問題、外国にルーツをもつ人々にか関わるニュースに注意を払っておく。また、履修に向けての心構えとして学生心得を読んでおく。
授業内容	授業の進め方と全授業の見通しの説明、また履修者が臨むべき姿勢に関するガイダンスを行う。
事後学習	授業中に紹介した参考文献に目を通しておく。

参考文献	
------	--

第2回	
事前学習	参考文献を読む。前回授業のノート内容をまとめておく。
授業内容	異文化を相対化するにあたって有効な学問、文化人類学、社会学、地域研究などの学説について概観する。
事後学習	授業で配布された資料を熟読し、地域研究の手法について具体的に理解する。
参考文献	『地域研究』（JCAS Review）Vol.7 No.1（2005年6月発行） 北川隆吉監修『地域研究の課題と方法 アジアアフリカ社会研究入門』文化書房博文社（2006年）

第3回	
事前学習	前回の内容を踏まえて、文化とはどのようなことを指すのか、考えておく。
授業内容	これまでのものの見方の偏りについて考える。当然視されていることを疑ってみる重要性に気づく。そこから自文化中心主義の陥穽について考えてみる。
事後学習	授業中に紹介された著作の内容について、現在はどうなっているのかをインターネットなどで調べる。
参考文献	『現代思想 特集ろう文化』

第4回	
事前学習	「ろう文化宣言」（木村／市田）を熟読し、どのようなことが主張されているか考えてみる。
授業内容	「ろう文化宣言」の中で定義されている「ろう文化」とは何か、それは「聴文化」とどう違うのか、また、なぜそのような定義と宣言がなされたのかを理解する。
事後学習	授業中に紹介された文献に目を通しておく。
参考文献	

第5回	
事前学習	多文化共生とはどのようなことか。インターネットなどで調べておく。
授業内容	日本における多文化共生の先駆的事例として川崎市における施策について、その経緯や内容について学ぶ。
事後学習	授業中に示したウェブサイトを開覧し、川崎市の事例についてさらに理解を深める。
参考文献	

第6回	
事前学習	川崎市の施策と類似の施策が自分の居住地でも実施されているかどうか調べてみる。
授業内容	川崎市における多文化共生の事例について、民間団体の活動から学び、NPOなどの役割について知る。
事後学習	自分の居住地で多文化共生について活動しているNPOなどの民間団体の事例を調べる。
参考文献	

第7回	
事前学習	学校における多文化共生とはどのようなものか調べてみる。
授業内容	横浜市における多文化教育の事例について学び、その経緯や現状、課題について検討する。
事後学習	授業中に示した事例から、外国にルーツを持つ子どもの教育にとって重要な課題は何か検討する。
参考文献	

第8回	
事前学習	多文化教育とはどのようなことを意味するのか、目的は何か、対象者はだれか、国別の違いなどはあるのか、事前に指定された論文や自分の収集した資料を下に考えておく。

授業内容	日本の各地域における多文化教育に力を入れている学校の事例を通じて、そのような教育を必要とする当事者の考え方や課題について理解する。
事後学習	授業中に配布された資料をよく読み、わからないところはインターネットなどで調べておく。
参考文献	

第 9 回	
事前学習	自分の出身地や居住地で実施されている多文化共生施策、多文化教育施策に関する文書に目をとしておく。
授業内容	日本における多文化教育の課題と多文化共生の課題を連携させる。多文化教育において重要視されていたことを多文化共生という視点から再構成する。多文化共生施策の実施における地方自治体、NPQ、専門家の役割について理解する。
事後学習	授業中に示した資料をよく読み、視聴した映像について理解を深める。できれば授業後にもう一度映像を見て欲しい。
参考文献	

第 1 0 回	
事前学習	日本における外国人労働者の受け入れに関する政策の経緯について調べておく。
授業内容	日本における外国人労働者の受け入れに関する政策の経緯について理解し、外国人労働者やその家族が直面する課題について考える。
事後学習	自分の居住地における外国人労働者の状況について、統計を調べて実態を把握してみる。
参考文献	

第 1 1 回	
事前学習	前回の復習に引き続き、自分の居住地における外国人労働者の実態について把握し、その人たちがどのような課題に直面しているかを考えてみる。
授業内容	日本における外国人労働者の受け入れについて、現在議論されていることはどのようなことか。政府の方針、受け入れ推進派の考え方、受け入れ慎重派の考え方を比較検討する。さらに、外国人労働者をめぐる日本社会における軋轢や差別の事例などを具体的に学び、解決方法について考える。
事後学習	自分の居住地において、外国人労働者の支援をしている団体があるかどうか、あればどのような活動をしているか、調べてみる。
参考文献	

第 1 2 回	
事前学習	前回の授業とのつながりから、弱者支援と文化について考えてみる。異なる文化の間をつなぐ福祉的な施策にはどのようなものがありうるかを考えてみる。
授業内容	タイにおけるコミュニティ福祉の事例から福祉と文化の関わりについて検討する。福祉的施策に文化的背景や、宗教を利用した福祉実践などについて事例から学ぶ。
事後学習	タイの女性と日本の女性の経済的、社会的役割はどう違うかを考えておく。
参考文献	

第 1 3 回	
事前学習	日本におけるジェンダー文化（ジェンダーによって規定された文化、または文化が規定するジェンダー役割など）にはどのようなものがあるかを考えておく。
授業内容	ジェンダーがいかに文化的、社会的な概念であるかを実践的に理解する。グループワークをして日本的なジェンダー文化について事例をあげ、その内容について検討しあう。
事後学習	授業中に発見したジェンダーの文化について、どのような課題があるかを検討してみる。
参考文献	

第 1 4 回	
事前学習	日本以外の地域における多様なジェンダーのあり方について情報収集しておく。例えば、欧米、東南アジア、南アジア、中東ではどのようなことが女性の課題とされているかを調べてみる。
授業内容	欧米やアジアの国々におけるジェンダー文化のありようについて、いくつかの事例から比較検討する。
事後学習	授業中に示した各地域のジェンダー文化の事例を通じて、逆に文化をどのように定義できるかを考えてみる。
参考文献	

第 1 5 回	
事前学習	レジーリエンスという概念について、配布した資料をもとに下調べをしておく。

授業内容	14回までの授業で学んできたように、文化という概念は脆弱な存在について理解し支援するために役立つものである。最後に、脆弱性・レジリエンスという概念を学び、社会のレジリエンスを高めるためには異文化理解の視点が不可欠であることを理解する。
事後学習	自分の将来の仕事にレジリエンスという概念がどのようにかわってくるか、考え、整理してみる。
参考文献	

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	＜大DP-1＞【社会の構成員としての基本的知識・技能・能力】 ＜大DP1-（１）＞日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。 ＜大DP1-（２）＞情報リテラシーや数量的スキルを修得している。 ＜大DP1-（３）＞課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。 ＜大DP1-（４）＞自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。 ＜大DP1-（５）＞人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。 ＜大DP-2＞【専門教育分野における知識・技能・能力】 ＜大DP2-（１）＞自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。 ＜大DP2-（２）＞修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。
-----------	--